

## 日本道德教育学会神奈川支部

## 第1回オンライン道德フォーラム 開催！

コロナ禍で、様々な活動が制限される中、神奈川支部では、「まずは何か動き出してみよう」と、Zoomによる「第1回道德フォーラム」を企画しました。開催は2020年7月11日土曜日の15時より、ZOOMによるフォーラムということで、全国から52名の先生方に参加していただき、道德に対する熱い思いを語り合う貴重な時間となりました。

「日本道德教育学会神奈川支部 第1回 ZOOMによるオンラインフォーラム」  
●日時：7月11日（土）15時～17時くらいまで  
●プログラム：1. 開会挨拶/2. 支部研究テーマ発表/3. 研究発表/4. 研究協議/5. Web研究会総括/6. 閉会の言葉

ご参加の皆様へお願い ※開会まで、もう少しお待ちください。  
①フォーラムに入室されましたら、お手元にあるご自身のマイクはミュートにしてください。  
②Zoomのメニューバーにチャット機能がありますので、必ずご所属とお名前を入力クリックしてください。  
③発言される際はマイクで氏名を仰ってください。司会の方で発言者を確認できます。

2020年度 日本道德教育学会神奈川支部 第1回 ZOOMによるオンラインフォーラム  
2020年度 日本道德教育学会神奈川支部 第1回 ZOOMによるオンラインフォーラム  
2020年度 日本道德教育学会神奈川支部 第1回 ZOOMによるオンラインフォーラム

### I 今年度研究テーマについて

(富岡研究推進委員長)

「道德科の指導と評価の一体化を目指して

～生き方を励まし、勇気づける授業づくり～

コロナの影響を受ける現在、子どもたちにも不安がつきまとっている。副題には、子どもたちが「夢」「希望」「勇気」をもてるような思いを込めている。私たちは、変化の激しい社会と主体的に向き合い、学びを人生や社会に生かし、自ら幸福な人生を切り拓いていく子どもを育てたいと思っている。そのために道德を、子どもたちの生き方を励まし勇気づけるものにしていきたいという願いをもってこのテーマを設定した。今年度はこのような子どもたちの姿を目指しながら、「指導と評価の一体化」をさらに具体的に進めていきたいと思っている。

### II 研究提案

「道德科の指導と評価の一体化を目指して～課題探求型道德科授業におけるグループ・モデレーションの視点から～」

(田沼茂紀支部長より)

#### 1 生き方学びを目的とする道德科では、子ども自身の「問い」が不可欠ではないか。

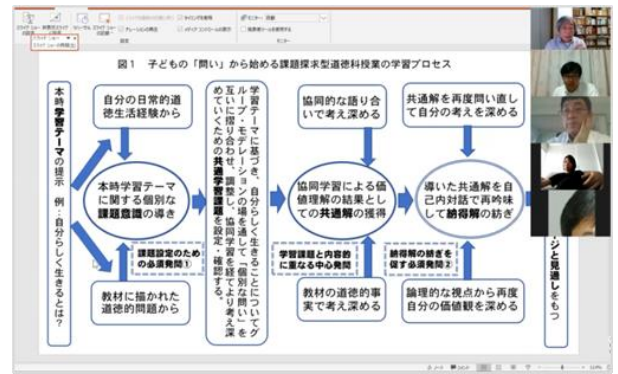
子どもの主体性を大切にする道德科では、指導過程論的な方法論ではなく、授業の学習プロセスの中で子どもの学びに着目していくことが重要である。一年間の道德学習を大単元、学期を中単元、ユニットを小単元として計画していくことで、子どもは見通しがもて、教師は実効性ある授業にできるのではないか。子どもに他者対話を介して、自分自身との自己内対話を一時間の授業の中でどう位置付けていくかが重要である。子どもたちの問いがないと主体的にはならない。自分事として学習する中で生き方を見つめ、学びにつなげていくためにも、子ども個々の問いを引き出していく手続きが重要である。



#### 2 道德科では、最適解となる道德的課題解決が見通せるような「学習プロセス」が必要ではないか

道德的問題に対する「個々の問い」を協同思考するための「全体の問い」～摺り合わせ、調整して高めていくこと、これが「グループ・モデレーション」の考え方であり、「考え、議論する道德」の実現につながっていく。「個々の問い」を「全体の問い」へ、次に「多くの人が共有できる共通解を導く」ことが諸価値の理

解につながる。そして、最後に個に立ち返った時、子どもたちは、自分の問いに対しての納得解を紡ぐことができ、考えが深まっていく。個々の問いを共通学習課題にする手続きで、協同学習を通しての課題追求が可能となり、互いが「共有できる共通解」へと導いていけるだろう。



### 3 多様な価値が複合的に絡み合って成り立つ現代的な課題の解決にはパッケージ型ユニットが有効ではないか。

複合的な道徳的価値を有する現代的な課題を解決するには、ユニットにして複数の価値を相互に関連付けて指導していくことが大切である。ユニットを通しての協同的な学び、自己内対話を引き出すことができたかという教師の指導観点が予めあってこそ、子どもの学びを見取る視点に基づく、学習評価へつながる。また、学び評価の視点となる「ものさし」は授業開き、保護者会などで児童や保護者に知らせておき、道徳学習で実現してほしい姿等をオープンにしていくことが大切であろう。

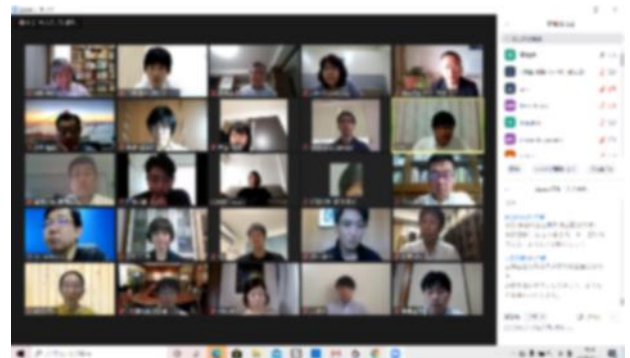
指導過程論の形態ではなく、授業実践プロセスで辿る学習メカニズム（学習プロセス論）を明確にしていくことで、指導経験や道徳理解の浅い教師に説明をしていくことができる。

## III 研究協議 <参加型フリートーク>

ZOOMを活用し意見を出し合う研究協議では、研究テーマと研究提案の2つの柱について意見が出されました。

研究テーマについては「評価には『教師にとっての授業評価』『子どもたちを勇気づけよりよい生き方につなげる評価』がある。」「子どもたちの思いの中から問いを導き出し授業者も一緒に考えていけるようなポジティブな授業づくりをしていきたい」「自分の変容を自覚化でき、子どもの背中を押してあげる前向きな評価ができればと考えている」等、道徳の授業を通しての子どもたちの生き方を後押ししていきたい、という評価とからめた意見が多く出されました。

また、研究提案については、参加者から実践をもとに次のような意見が出されました。「『個の問いを全体の問いにすること』や、さらにそれを『自分の納得解』につなげていくための手立てが難しい」「自分の地域では『子ども自身が考えたい』と思えるように様々な教育活動の中で問題提起をして、事前に気持ちを高めていけるようにすることを以前から取り組んでいる」「子ども一人ひとりの問いが少しでも『全体の問い』に関係していれば、ユニットで連続して探求していく過程で、問いそのものとのらえがはつきりしてくるのではないかと」「個の問いと全体の問いの『往還』が大切である」「共通解から納得解の展開実践を今後深めていきたい」「教師が投げかけたことを契機に共通学習課題へと高め、またそれを個にフィードバックするやり方もある」「みんなで語り合い考え合う『モデレーション』をやること自体が、道徳学習だと考える」「個の課題を全体の問いにしていく中で考え議論し、多面的・多角的な見方が育成されていこうと」「テーマ学習はやはり大切ではないか」「実生活では多様な価値が生活の中に混在している。『パッケージ型ユニット』の授業をすることで子どもたちの負担も減るのではないかと」「複数時間のユニットを組んだ時『一時間の学習の課題』と『ユニット全体の課題』の関連性を明確にしていけないと学びの見取り評価が難しい」「全体を見通す事の難しさがある、学習プロセスのメカニズムを明確化、一般化していくことが求められる」「多くの教師は指導過程論を求めてしまうが、今回提案された『グループ・モデレーション』のメカニズムを明確にした学習プロセス論にしていくことで現場の実践につながっていくだろう」等の発言がありました。



他にも、普段の道徳の授業での実践や感じていることが現場の声として多く話されました。

活動が制限される中で行ったオンラインフォーラムでしたが、全国の先生方とまるで近くにいるようにつながれる良さを感じた時間でした。その中で、様々な子どもの様子や学校の様子を踏まえて、今後の道徳教育、道徳の授業について語れる機会があることの良さも感じました。また、今後もオンラインフォーラムは続けていきたいと思っています。また、次回も先生方と一緒に勉強できることを楽しみにしています。